

令和7年度 在宅難病患者一時入院事業委託医療機関等連絡会議 ご報告

日時：令和7年9月1日（月） 13:30-15:30

会場：茨城県立中央病院 研修棟「会議室A」
ハイブリッド会議

出席者：74名（会場21名、オンライン53名）

会議内容：

- 1.開会 司会進行：茨城県立中央病院 医療相談支援室岡野看護師長
- 2.挨拶 難病診療連携拠点病院 茨城県立中央病院 島居徹病院長
茨城県保健医療部 疾病対策課 増田淳之課長
- 3.内容
 - 1) 茨城県在宅難病患者一時入院（以下、レスパイト入院）事業、在宅レスパイト事業の概要と実績等について
茨城県保健医療部疾病対策課 黒澤咲弥花技師
 - 2) 茨城県立中央病院実績について
茨城県立中央病院 難病相談連絡員 堤まゆみ
 - 3) レスパイト入院事業の取り組みについて
「つくばセントラル病院におけるレスパイト入院の対応症例について」
社会医療法人 若竹会 つくばセントラル病院 地域連携室係長 石川敦子氏
 - 4) 話題提供
「茨城県難病相談支援センターの役割と支援の実際について」
茨城県難病相談支援センター 高田由美子氏
 - 5) 意見交換
- 4.総評 茨城県立中央病院 難病医療対応WG委員長
腎臓内科部長兼透析センター長 甲斐平康 医師
- 5.閉会 茨城県立中央病院 医療相談支援室長 田崎美紀 副総看護師長

レスパイト入院事業の取り組みでは・・・

- ご家族に寄り添いながら対応していたところが素晴らしい
- つくばセントラル病院の事例紹介が大変勉強になった
- 受け入れまでの準備と連携の大変さがよく分かった
- 病棟内では、レスパイト入院を受け入れる中で多職種が連携していることを改めて学ぶことができた
- 患者の受け入れにあたり情報共有の重要性を再認識した

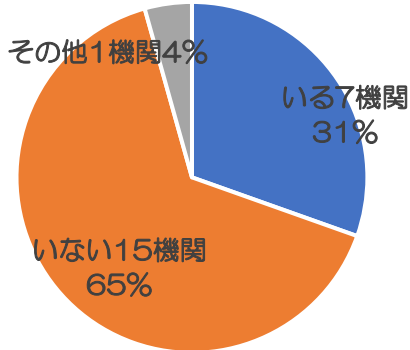
などなど感想やご意見をいただきました





委託医療機関の受け入れ時の体制について聞いてみました
(任意のため23機関です)

レスパイト入院事業受け入れ
担当(窓口)の医師はいますか



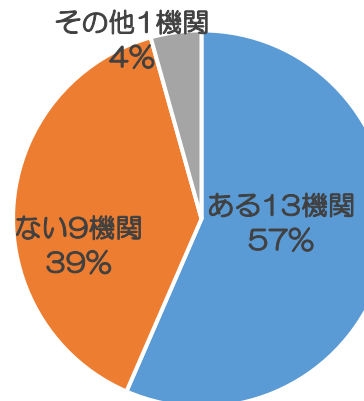
担当(窓口)の医師がいる場合の内訳

- 脳神経内科医 1名 2機関
- 神経内科医 1名 1機関
- 神経内科医 4名 1機関
- 一般内科医 1名 1機関
- 内科・脳神経外科医 約2名 1機関
- 整形外科医 1名 1機関

担当(窓口)医師がいない機関での
受け入れる際の取り決めについて

- 新規の受け入れの場合はベッドコントロール医師が入院担当医師を決定する
- 訪問診療を見据え、住所地で担当医師を決定する
- 疾患、病床確保、マンパワーに応じて対応
- 疾患、症状、医療的ケア等に応じた対応
- 診療情報提供書をもとに医師(呼吸器・神経内科・皮膚科など)に確認する
- 紹介状を院長へ確認し受け入れの可否を検討、その後、担当医を選定する。
- 診療情報提供書を事前にFAXしてもらい、診療科とベッドの空き状況を確認、検討したうえで受け入れをする。
- 地域医療連携部 部長(医師)経由で担当可能な医師へ相談
- 医療連携、入院受入れ担当窓口にて対応
- 病院長が決定し、疾病に応じて担当医を指名

レスパイト入院事業受け入れ時の
院内手順書・フロー等がありますか



受け入れ体制について・・・

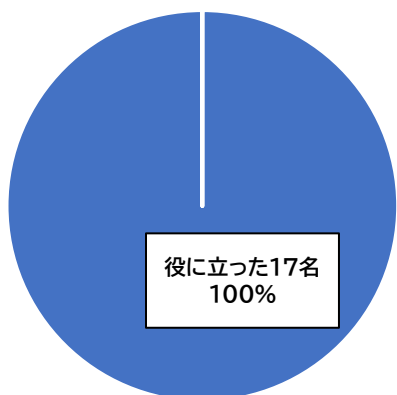
「受入れ窓口、担当医師、手順等が病院により大きく異なることを初めて知った。どこの医療機関も置かれた状況のなか、工夫し調整し、スムーズに患者を受入れてもらっていることに感謝したい」というご意見がありました。本当ですよ。感謝・感謝です！



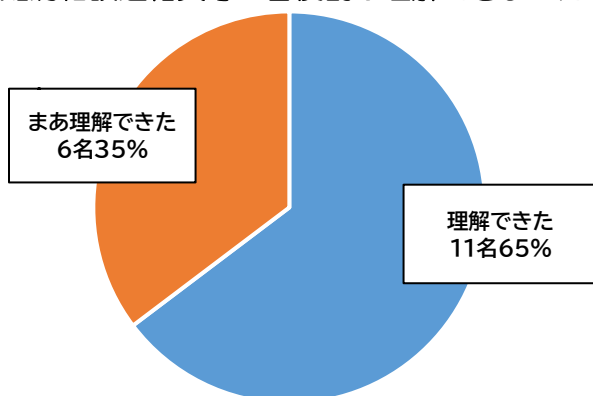
事後アンケートの結果です

1. 会議の内容について

1) 本事業の取り組みは役立つ内容でしたか



2) 本事業を行う上で、保健所・委託医療機関・難病相談連絡員等の各役割は理解できましたか



3) 受け入れる側の医療機関のMSWや病棟看護師の支援について、心に残ったことなど

- ご家族に寄り添いながら対応していたところが印象的だった
- 受け入れまでの準備と連携の大変さがよく分かった
- 小児レスパイトの入院状況や他院での入院の手順を知ることができた
- レスパイト入院の受け入れ前に対象者の自宅に訪問したり、利用している訪問看護師と連携して準備をしていることや訪問看護師がコミュニケーションの方法などボードを作って病棟看護師と情報共有していることが印象に残った
- 事前の他職種との情報共有の重要さや家族の要望に応え、安心してレスパイトを受ける環境を整えることで信頼も高まり、家族も継続していこうという思いになった事例である
- 患者の受け入れにあたり情報共有の重要性を再認識した。特に3日間と短期間だったので当日から対応するために事前の準備が大変だったと思う
- 自宅で使用していた方法などを入院してからも取り入れることで安心すると感じた
- 入院前、入院中の事前準備や多職種間での情報共有、連携も重要だが、利用前の不安を感じていたKPへの対応（入院時の様子報告）や細やかな配慮も必要であることも改めて感じることができた
- 事例でMEとの連携をしていたが、当院でも事前にMEと連携を取れるよう働きかけをしようと思った
- 入院患者の受け入れ経験がないため今後の参考にしたい
- 入院時、院内の多職種の方が関わり調整したり、ベッドサイドに写真付き資料を準備したり、様々な方（病院だけではなく、患者・家族・地域の支援者等）の協力があって、安心・安全なレスパイト入院事業が成り立っていると実感した
- 患者と離れる家族の不安軽減のために、情報共有のための様々な関わりが大切だと、改めて学んだ

2. 今後の連絡会議で取り入れてほしい内容について

- 今後も引き続き実際の症例を共有してほしい
- 今回はレスパイト入院の利用者の紹介が1名であったので、他の方の対応はどのようにしていたのかを聞きたい
- 差額ベッド代について、統一はできなくても基本の方針について等
- 地域レベルで困っていることについて知りたい。（保健所が困ることがあるかなど）
例：社会資源の不足や不便なこと
- 患者家族やケアマネから直接レスパイト入院の相談がくることが多い。その場合の流れはどうしたら良いか。いまいち分かっていないのが現状。保健所に連絡??
- 委託医療機関は32か所あるが、実際に入院を受入れている医療機関は限られており、医療機関の取り合いにならないことを願っている。医療機関側で、レスパイト事業、事業外の入院受入れについて、どのようにすみ分けているのか伺いたい

3. 連絡会議全体についての意見・感想

- とても参考になった
- 当院での活動の参考にしたい
- レスパイト事業に関する各医療機関や保健所等の現状や課題を共有することができ、知見を広げることができた
- 定期的に開催しているので、他施設の情報が把握できる機会となり大変役に立っている
- 初めて難病担当になったので、難病相談支援センターでできることや相談を受けるときの注意点等の基礎的なことから学ぶことができて良かった
- オンラインだと参加しやすい。準備が大変と思うが、ハイブリッド形式でお願いしたい
- 介護者のアンケートにより、介護者の要望、意見等を知ることができて良かった
- 病院、保健所、茨城難病相談センターの方々と意見交換をする機会を作ってもらい、とても参考になる話を聞くことができた 今後に生かしていきたい
- 実績の他、入院を受入れる医療機関側の意見を聞くことができ、大変参考になった
- グループワーク等があれば問題の共有がしやすいと思った
- 音が小さく、全体的に聞き取りづらかった。(webexで参加)
- 各HPの体制についてそれぞれから発言し、意見交換できると良いと思った。会場だと少しマイクが聞き取りにくかった
- 毎回新たな発見があり、とても感謝している。レスパイト医療機関の取組み報告、意見交換や難病相談医療センターの話題提供もとても良かった
- 『難病患者さんが利用できる制度とサービス』動画について、保健所からも受給者にお知らせして行こうと思う



編集後記・・・ひとりごと

今年度も無事に開催することができました。
レスパイト事業を通して沢山の出会い、そして沢山の感動に感謝です！
次年度はどんな出会い、感動があるかな・・・☆

